

道徳資料研究委員会報告

世話係 堀口 潔
委員長 中村孝子

◆研究テーマ「自他の良さや違いに気づき、認め合うことのできる生徒の育成」

1 更埴道徳教育研究協議会の概要

- ① 会場及び実施期日 千曲市立屋代中学校 平成30年10月30日(火)
- ② 指導者 千曲市立上山田小学校 中澤 英治 校長先生
- ③ 参観授業 千曲市立屋代中学校 1年2組 小林 明日香 教諭
主題名 「友情・信頼」
内容項目 B-(8)「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。」
資料名 「片腕のラグーマン」(わたしの築く道しるべ1 信州教育出版社)

④ 指導者指導の概要

上山田小学校 中澤 英治 校長先生のご指導

- 観点1「心情のものさしを用いて、違う考えの人と話し合ったことは、自分の考えを深めることにつながっていたか」について
 - ・「一生懸命自分で紐をほどこうとするデニスに手を貸すかどうか」を考えてから、友達との交流を行った。初めから手を貸さないと言っていた子や助け合うのがあたりまえという子。そして、困っているなら手を貸すべきだという子などの立場が示されたことにより、交流の時間になって、友達のところに走って行って意見を聞いていた。友達に刺激を受けて記述していた姿が見られた。すばらしかった。
- 観点2「資料を2つに分けることは、友情に対する考えを深めることにつながっていたか」について
 - ・今日の資料は分けたことで、デニスに手を貸さなかった深い理由に迫れたので、後に示した方が効果的であった。2つに分けて、私はなぜはったのかを、生徒たちの反応を追っていた。それぞれに考えを書いていたが、後半の資料を読んだときにつっこりしていた生徒がいたのが印象的だった。
 - ・全体発表の後「心の底からの友情ってなんだろう」ということについてグループ活動に入ったが、友とのかかわりあいのよさと資料を2つに分けたことで、親切の質に気づくことができた。本当の親切にたどりつけそうだった。
- グループの話し合いについて
 - ・自己満足ではなく相手のためだけを思って、自分に利益がない、そういうのが

いい、という意見に続いて、直接的ではなく間接的。行動だけでなく態度や気持ちで表す。陰から見守る。という感じで出てきた。

- ・資料には背景がない。大人なら推量するところで、子どもはかなり考えていた。本当の親切とはと表そうとしていたところは深い学びにつながっていた。

⑤ 実践報告

- ・学校実践報告 道徳資料研究委員 渡辺 宏 先生（東小学校）
小5 主題名 「創意工夫して困難を切り開く」(A-(2))
指導内容「真理の探究
(真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと)」
資料名 「五郎兵衛新田」(わたしたちの道5 信州教育出版社)
- ・学校実践報告 道徳資料研究委員 中山 仁美 先生（坂城中学校）
中3 主題名 「自分を好きになる」(A-(3))
指導内容「向上心・個性の伸長」
資料名 「ええところ」(わたしの築く道3 信州教育出版社)

⑥ 小学校へのアンケート調査

- ・今年度から教科化された小学校の資料活用の現状を知るために実施。
- ・教科化になり教科書を使用しているも、差し替えなどして、今後も活用していきたい資料の有無。評価の頻度について調査。
- ・10校からの回答を得た。要点のみ紹介する。教科書に加えたり差し替えたりして取り組んでいる資料は少ない。「わたしたちの道」から3本。「あけぼの」から1本挙げられた。また、通知票の評価については、毎学期記述が4校、年間通して1回(二学期か三学期のどちらか)が6校という結果だった。

2 本年度の委員会活動の成果○と課題□

- 中学校において、今後「道徳の教科化」により、自分ならどのように行動・実践するかを考え、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ道徳の授業について、研究を深めることができた。
- 教科化が始まった小学校では、教科書を中心に授業を工夫していることがわかってきた。児童の実態や取り組みによっては、人権教育の内容やデジタルコンテンツなどの利用もある。差し替えしても利用したい優れた資料について今後、最終のまとめにおいて示し、本委員会の役割を終える方向で検討。

【平成30年度 委員会構成】

- ◇世話係 堀口 潔 (坂城中学校長)
- ◇委員長 中村 孝子 (更級小学校) ◇副委員長 井浦 徹 (戸上中学校)
- ◇委員 渡辺 宏 (東小学校) 中山 仁美 (坂城中学校)
- 小山 堅治 (屋代中学校) 渡辺 祐一 (埴生中学校)